島倉朝雄君 作曲

集い来し 百 と四十の若人は故郷も親も銭もなく恃むは 己 の仁侠ばかりっと こ ひゃく しじゅう やじんど しきょう おや かね たの おのれ おんしぎ 

さあ来いさあ来い恵迪へ北都に築かん我等が自治寮夜も希望の灯は消さず、棲むは豪傑酒乱の徒い。

春 (四月)

明日は我身か知らねどもちょいとそこ行く新入寮生さん

これぞ寮生の生きる道
れどない。 まとこ いまとこ がませい まとこ がまり 対対

夏(八月)

弊衣破帽に食糧難 いとそこ行く寮生さんちょいとそこ行く寮生さん

これぞ寮生の生きる道の親の顔が眼に浮かぶった。

秋 (十月)

ままりますのである。 ちょいとそこ行く寮生さんちょいとそこ行く寮生さん

これぞ寮生の生きる道程喜乱舞す交差点

ちょいとそこ行く寮生さん

ちょいとそこ行く寮生さん冬(二月)

花の女子大赤面すが、といったいからないが、これにないました。これではきかんが、シャンプ大会変態か

これぞ寮生の生きる道

いいかん

これぞ寮生の生きる道天下の北大恵迪でもつたがかれた恵迪でもつりませる

(※ 前口上は島倉朝雄君の作による)